

上田 勉

「校舎がタイムカプセル」 浪江町津島小学校と中学校、最初で最後の公開

「東京電力福島第1原発事故で帰還困難区域となり、閉校した福島県浪江町立津島小学校と津島中学校の校舎が11月4日、事故後初めて一般公開された。卒業生ら約110人が訪れ、在校時の面影を懐かしんだ。

「やっぱり窓から見える景色が素晴らしい。良いところで学んでいたんだね」。母子そろって津島小で学んだ佐久間美由紀さん(39)＝埼玉県熊谷市＝は、同級生の佐藤里美さん(40)とともに黄や赤に色づいた山々に囲まれた校舎内を回った。美由紀さんの長男遥仁(はると)さんは震災当時に小学1年だった。その後は転校を余儀なくされ、各地の学校になじむのに苦労したという。この日、遥仁さんは津島小に来られなかったが、美由紀さんには「津島は優しい人が多く、津島小が一番良かった」と話していたという。

津島小卒業生の菅原みずほさん(40)＝福島市＝も校舎で同級生との再会を喜んだ。思い入れのある図書室に入ると「懐かしい」と声を上げ、東日本大震災が起きた当時のまま並ぶ本や備品を見つめた。「学校には楽しかった思い出しかない。閉校になったのはさみしい」と語った。

津島地区には震災前に1,460人が住んでいたが、原発事故で全域が帰還困難区域になった。その後、両校を含む地区の一部が特定復興再生拠点区域(復興拠点)に選ばれて除染が進み、今年3月末に避難指示が解かれた。ただ、9月末時点の居住者は6世帯7人とどまっている。震災前には津島小に児童57人、津島中に生徒34人が在籍していたが、2021年に閉校した。両校の校舎について、浪江町は今年度末までに、解体か、改修して利活用するかの選択を迫られている。一般公開は「最初で最後」となる見通しだ。

美由紀さんは母校の閉校を聞いた時、「帰る家もなくなれば全部なくなるんだな」と寂しさがあふれたという。ただ、今回の一般公開について「校舎に入れてラッキーだった」、佐藤さんも「校舎自体がタイムカプセルのように思い出が詰まっている。来られてよかった」と話した。

見学会は5日も行われる。校舎内には震災当時の在校生の私物の一部が残っているため、放射線量を測ったうえで、希望する持ち主に返却する。浪江町の担当者は「ぜひ足を運んでほしい」と呼びかけている。【松本ゆう雅】(「毎日新聞 2023年11月4日付け)



浪江町の津島小学校と津島中学校



【津島小学校の教室（浪江町）】（2023年11月5日撮影）



【津島中学校の教室（浪江町）】（2023年11月5日撮影）